



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2024～2025 年度

プロバスだより

第350号

2025 年 1 月 16 日発行

編集・発行 情報委員会

語り合いたい場、語れる場、学び高まる場

臨時総会

日 時 令和 6 年 12 月 12 日 (木) 12 : 00
場 所 八王子エルシィ
出席者 26 名
(会員総数 40 名、欠席 10 名、休会 4 名)

1. 開 会 土屋例会副委員長

只今より臨時総会を開催します。

2. 会長挨拶 塚本会長

本日の議案は、第 I 号議案、第 II 号議案及び第 III 号議案です。よろしくご審議ください。

3. 議長選任

恒例により会長が議長を務め、塚本会長が議長席につき、会員総数と出席者数を確認、本総会が有効に成立したことを宣言し、議事に入った。

4. 書記・議事録署名人の選出

書記に内山雅之会員、議事録署名人に土屋三千代会員、丸山恭会員が選任された。

5. 議 事

議案書は配布済なので、項目のみを掲載する。

第 I 号議案 会則の改訂 (案)

第 II 号議案 「第 2 回合唱祭」特別会計予算 (案)

第 III 号議案 創立 30 周年記念事業のため「事業準備委員会」の発足 (案)

以上の提出議案に対して、担当役員 (第 I 号議案及び第 II 号議案は持田会員、第 III 号議案は杉山会員) から説明があり、特に質疑なく全員一致で可決承認された。

6. 議長解任

第 350 回例会

1. 開 会 土屋例会副委員長

第 350 回例会を開催します。本日の出席者数は 26 名、出席率は 72% です。

2. 会長挨拶 塚本会長

12 月例会への出席者 26 名です。ご出席ありがとうございます。

23 年間在籍された、矢島一雄会員が 11 月 5 日ご逝去されました。式は家族葬にてすまされた後の連絡でしたので、プロバスクラブからは池田会員・研修委員長が弔問されました。ここに謹んでお悔やみを申し上げます。全員で黙とうをいたしたく思いますのでご協力のほどお願いいたします。

11 月の移動例会は 25 名参加されグループに分かれての意見交換を持ちました。今のプロバスクラブの活動をはじめ活動内容を見て皆さん一人一人が出された声を基に今月の総会にてまとめたと思います。

12 月 8 日 (日) には八王子ボランティアネットワーク 25 周年記念式典にプロバスクラブから 10 名近くの方にご出席をして頂きました。有難うございました。

八王子市初宿和夫市長との「ふれあいトーク」が 12 月 10 日 (火) にビオラにて行なわれました。出席の連絡は 18 名でしたが、当日の参加者は 12 名でした。市長に、プロバスクラブは地域社会への関わりを持ち活動をしていることを話しました。それに関わり、「八王子市教育委員会等の推奨、奨励、協賛をして頂ける方向で、時にはプロバスクラブの活動を理解していただけるとありがたいのですが」と市長に声掛けをしました。

私は市長さんの市民の声を聴き、東京都在職時のキャリアを活かし、市民への還元を心掛けたいといっ

た意気込みを感じとることが出来ました。また、「触れ合いトークは、声をかけて頂ければ、いつでも受けていきたいと思います」との声を頂きました。

本日の例会も「語り合いたい場、語れる場、学び高まる場」になることを願っています。



市長と出席の皆さん

3. ハッピーコイン披露

一瀬副会長からハッピーコイン 15 件の披露がありました。(5 ページに掲載)

4. パースデーカード贈呈

12 月生まれの飯田富美子会員、齊藤万理子会員のお二人に池田会員手作りのパースデーカードが贈られました。

左から齊藤会員、飯田会員、塚本会長



<誕生日のひとこと>

齊藤万理子

- ・ヒントは目の前にあるといつも興味を持って、楽しく生きようと思ってきた。
- ・現状維持は後退の始まりとコロナ以降は前を向こうと心してきた。
- ・プロバスクラブに入り道は無限に広がり、行き詰
- ・プロバスクラブに入り道は無限に広がり、行き詰まりの無い方たちが多い。教えて頂きながら、これからも生きてゆきたいと思います。

5. 幹事報告

齊藤幹事

今年最後の例会です。臨時総会では第Ⅰ号議案の会費値上げに伴う会則の改訂、第Ⅱ号議案では合唱祭プログラム及び予算、第Ⅲ号議案で来年 30 周年記念事業の準備委員会の発足など全ての議案が承認されました。

会員総意のもとに可決されましたこと御礼申し上げます。

お仲間の会員も少なくなり、寂しくなりましたが、今日は内山会員、岡本会員も参加してくださいました。

10 日に実施された市長とのふれあいトークでは、杉山会員、持田会員とのお二人のプレゼンテーションは素晴らしいものでした。プロバスのことをよく理解され関心を持ってくださったことと思います。何かできそうな、一歩進める気がしてきました。

冬本番寒い季節となりましたので御身大切に佳き年をお迎え下さいますようお願いしております。皆様のご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

6. 委員会活動報告

(1) 例会委員会

岩島委員長

現在、会員は 40 名（うち休会者 4 名）です。本日は、体調不良による欠席の方が数名おられるなど、出席は 26 名、出席率は 72% でした。会員の皆さんには健康に留意され、体調管理に十分注意して例会に出席していただきたいと思います。

(2) 会員・研修委員会

池田委員長

11 月の移動例会で各グループから報告された検討内容を取りまとめ、資料として「11 月移動例会 主要課題」を作成しました。本日お手元に配布しましたのでお目通し下さい。

(3) 地域奉仕委員会

持田委員長

「合唱祭」関係については今までのところ、準備は予定通りに進んでいます。

本日は当日及び当日までの準備のための担当役割分担を決めましたので報告致します。「One for ALL」の気持ちで進んで頂きたいと思います。

「合唱祭」はクラブ全員で参加・開催するというようにしていきたい。ですから本日のこの役割表は責任者とサブの方の名前になっておりますが、全員参加の形をとりますので、全員に何らかの役を持って

もらいます。よろしく願います。詳細は本日お手元に配布の「第2回合唱祭(当日)役割分担表(案)」の通りです。

1月21日(火)に南大沢文化会館で出演校の責任者に集合して頂き、合唱祭の説明会を開催します。そこで、当日の注意点など詳細の説明を予定しております。

チラシも手配し、年内に完成予定です。その後、1月後半にはプログラム作成です。今後も協力よろしくお願いします。

(4) 宇宙の学校 野口PJ・サブリーダー

11月で本年度の宇宙の学校はすべて終了しました。会員の皆様のご協力に感謝します。応募していたのに当日会場に来ない親子がありました。検討を要する事項であると思います。

(5) 交流担当 田中理事

12月20日に友好クラブである「埼玉浮き城プロバスクラブ」(行田市)の例会があり、塚本会長ら会員5人ほどで訪問する予定です。

7. 八王子プロバスクラブ創立30周年準備計画

杉山担当理事

来期2025年度10月に当クラブが30周年を迎えるにあたり、クラブ創立30周年記念事業として、令和7年10月26日(日)に、京王プラザホテル八王子5階(予約済み)において、宇宙飛行士講演会(次代を担う子どもたちへ、「宇宙に目を向けて」)(市内の小・中学生を対象、宇宙飛行士金井宣茂先生、共催 東京八王子プロバスクラブ・八王子市教育委員会、協力 宇宙開発研究開発機構(JAXA)宇宙教育センター、NPO法人子ども・宇宙・未来の会)及び記念式典&懇親会(ご来賓・ゲストを含めて100名~120名を予定)を開催します。

その企画・運営準備のために、次の9名の体制にて「事業準備委員会」を設置して発足させることが本日の臨時総会で決まりました。

相談役 立川富美代(創立会員)

杉山友一(行政渉外)

下山邦夫(宇宙の学校)

委員長 持田律三

副委員長 泉道夫(事業・会計)、山本通陽(事業)

丸山恭(記念誌)

現会長 塚本吉紀

会長エレクト 一瀬明

なお、2025年7月10日(一瀬会長年度予定)からは委員会を拡大して、準備委員会を実行委員会に切り替えます。

8. 同好会報告

六義園&東洋文庫・秋の紅葉ツアー

泉 道夫

[創立100周年記念 知の大冒険——東洋文庫名品の煌めき]と六義園を訪れました。

六義園と東洋文庫は、ともに三菱第三代社長の岩崎久彌により寄付されたもので、元々は同じ敷地内にありました。今回歴史を共有する六義園と東洋文庫コンビツアーを企画し、秋の紅葉の一日を満喫しました。



11月も終わりに近いよく晴れた朝、10時すぎの中央線で出発。1時間ほどで目的地の「駒込」駅に到着。「六義園」は五代将軍・徳川綱吉の信任が厚かつ

川越藩主・柳澤吉保が築園した大名庭園で、池をめぐる園路を小一時間かけて散策、山沿いの紅葉と池の水の青さのコントラストを心ゆくまで堪能できました。



少しベンチで休んだ後、正門を出て歩くこと数分で「東洋文庫」(東洋学分野での日本最古・最大の研究図書館)に到着。エレベーターで2階のミュージアムへ。

まずはモリソン文庫の偉容に圧倒された後、次の展示場では約100万冊の蔵書の中から抜粋された国宝・重要文化財等の貴重書や珍しい絵画等を鑑賞することができました。マルコ・ポーロ「東方見聞録」、17世紀オランダ極彩色の「大地図帳」、「魏志倭人人



伝」、杉田玄白他の「解体新書」、北斎の初刷りの版画など、聞いていても見るのは初めてのものばかりです。

庭園めぐりと知の冒険の後は、広い庭園に面した併設の「オリエントカフェ」でワインとパスタ/ハンバーグの昼食でお腹を満たし、ゆっくりと歓談。親睦を深めました。女性陣は途中買い物を楽しみながら帰路の途につきました。

<追記>

泉会員による入念な下見のご案内、事前にいただいたパンフレット、会場資料のおかげで充実した見学ができました。厳選された展示品の数々は一度で鑑賞しきれるものではなく、再度訪ねたいと思います。街中の喧騒を忘れる広々とした紅葉の六義園から静寂の東洋文庫へ、心に残る研修会でした。

国立能学堂で能楽二番を鑑賞 内山 雅之

昨年大河ドラマでは「光る君へ」と題して紫式部原作の「源氏物語」が放映されました。

その源氏物語に関連する能「野宮」と「葵上」の二番を千駄ヶ谷の国立能学堂で鑑賞しました。

「葵上」は源氏の愛を失った六条御息所が知らぬ間に生霊となって葵上に襲いかかるといった内容ですが、葵上は登場せず、舞台に置かれた「出小袖」により象徴されます。役者同士を対立させず、主人公の心理をきわだたせる能の優れた技法の一つです。

「野宮」は源氏への思いを残しながら伊勢の斎宮となる娘とともに、伊勢に下っていく六条御息所の心理を描いた内容です。前半は御息所と光源氏の出会いと別れを中心にした物語が語られ、後半では、序ノ舞と破ノ舞が演じられました。

三時間に亘る演能でしたが、大いに楽しめました。

9. プロバス賛歌

起立、斉唱

10. 閉会

一瀬副会長

本日の例会は臨時総会も併せて開催され、①会費の値上げ ② 合唱祭予算 ③ 30周年記念準備委員会の発足など重要案件が承認され、前に進むことになったことは意義あるものでありました。

また、10日には八王子初宿市長とのふれあいトークが開催され、プロバスクラブの存在を理解していただく機会となり、今後の当クラブの活動に行政の支援をどう引き出していくか、新たな展開を期待できようになったことは大きな収穫であったと考えます。本日は欠席者が多数で寂しいですがお互い健康管理に気を付けていきたいものだと思います



私の健康法

阿部 治子

私は「生きること」、「生活すること」を分けています。

家族がいますので、「掃除、洗濯、食事」の「生活」を担当しています。「生きること」では



「茶華道」で、家元の稽古、家元顧問としての行事、支部の研究会、読売カルチャー教室、自宅稽古などに打ち込んで、私が身につけた煎茶、抹茶、生け花という日本の藝術美を後世に伝えたいと願っています。

そして、週末は熱海の別荘へ行き湯三昧、海と空と星を眺めて、今日も良き日でありますようにと祈ります。これが私の健康法です。

健康と体力づくり

塩澤 迪夫

米寿を迎えて各団体や各種の役員を受け多忙な日々を過しています。会合は夜間が多く会議の後に近隣の店舗で談笑する日が続きました



このような生活が続き2年前に青少年の指導を中学より依頼された夕方、突然意識を失い10日ほど入院した。その時に腰を痛めてお

り、家族と話し合い禁煙、禁酒、車の運転、ゴルフを止め、自分の足で歩くことを考えました。

中学校での毎週の講座も継続して実施しており、痛めた腰を保護しながらも継続して支障なく過ごしておりますが、医師と相談して、体力の限界を考えて歩くことは今後の自分の生活に必要といわれ自分なりに毎日を休まずに一時間以上歩くことを実行しております。幸いにして勤務しております所にはバスが40分に一回の運行ですので度々歩いています。日々を団体の常勤顧問を依頼されながら地域の役員も継続しており、人間として体と頭を使いながら生活することが健康の秘訣と考えますので、今後も自分の足で行けるところは歩き、禁酒、禁煙を守り幼児から高齢者までの施設で実技を指導するお役に立ちたいと思います。

ハッピーコイン

◆夏は暑く、秋は短く、冬は寒い。高齢者にはアンハッピーな気候が続く毎日です。 一瀬 明

◆本日は臨時総会。会費や合唱祭、30周年行事など重要案件があります。会員の総意で進めていきたいものと思います。 一瀬 明

◆第45回いちょう祭りが、11/16、17の両日、晴天に恵まれ盛大に開催されました。来場者は11/16は153,000人、11/17は248,000人で合計401,000人でした。プロバスクラブの野口会員、一瀬会員、根本会員、ご多用中のところお手伝いいただき、大変ありがたく感謝申し上げます。ありがとうございました。 岡本 宝蔵

◆八王子学園八王子高等学校男子バスケット部がウインターカップ2024年大会に東京代表1位で全国大会に出場します。12月23日より始まり、23日は強豪新潟代表の帝京長岡と1回戦の試合を東京都体育館にて行います。皆さん、八王子っ子の応援をよろしく願います。 塚本 吉紀

◆インフルエンザが流行しているようです。皆様、体調に気をつけて新年を迎えましょう。 有泉 裕子

◆世界も日本も理解しがたい激変の時代になったようです。来年は平穏な年であってほしいと願っています。 馬場 征彦

◆12月10日プロバスクラブと初宿市長との「ふれあいトーク」があり、今後のプロバス活動への理解と行政面での後押しをお願いしておきました。

杉山 友一

◆12月13日は私の誕生日。「めでたさも中位なりわが師走」。お陰様で病気の後遺症も徐々に良くなってきました。皆さんのおかげです。ありがとうございます。 飯田富美子

◆三つの会議に出席してきました。創設したものばかりです。渋谷、六本木、内幸町と混雑するところばかり。渋谷の会議場で「転ばぬ先の杖を買って」と。とうとう杖を買うことにしました。

飯田富美子

◆恒例だった秋の陣馬温泉一泊囲碁同好会大会が久しぶりに開かれました。初代会長大野聖二さん寄贈のトロフィーを預かることになりました。往年のような賑やかさはないものの、囲碁三昧の楽しい時を過ごし、名物の猪鍋や岩魚の塩焼きを堪能しました。 橋本 鋼二

◆12月15日(日)に大学時代に入団していた女子美術大学との混声合唱団の定期演奏会に招待され、70年ぶりに聴きに行ってきます。とても楽しみにしています。 岩島 寛

◆無事茶会も終わり、また来年に向かって生きようと思います。今日もハッピーです。阿部 治子

◆八王子市長さんと「ふれあいトーク」で大変良い時間が持てました。八王子プロバスクラブをよく理解していただけて、今後、協力やBACKUPも期待できそうです。よい機会になりHAPPY!

持田 律三

◆12月24日から、シンガポールに在住している娘家族が一時帰国で一週間滞在します。今、私は同居生活で4人暮らしですので、+4人の娘家族で8人の生活が始まります。嬉しさもあり、苦労もありそうです。でもHAPPY! 持田 律三

◆黄斑変性症治療の為、長いこと休んでしまい皆様にご迷惑をお掛けしました。完治することはないと言われておりますが、視力が回復しつつあるので、失明しないだけでも「良し」としなければなりません。高齢化するとかかりやすい疾病だと言われております。 内山 雅之



残 菊

12月には菊の露地栽培は既に終わっており、季節外れとなってしまいました。

旧暦九月九日の重陽の節供では菊を愛でてきました。それだけでは足りないと、更に開催したのが十月の「残菊の宴」といわれております。九月とはまた異なる菊の風情を愛したのでしょうか。

残菊とは、「枯れずに残った菊」というイメージが強く、去り行く秋を惜しむという意味はあっても、そんなに美しいものとも思われません。ところが「残菊」は菊の別の美を愛で楽しむこともできるといわれています。

咲き残っている花というのではなく、美しく紫色に変化した花という意味での愛でかたです。こうした色彩の変化、時の移ろいを象徴した「残菊」の楽しみ方は、中国にはない日本人ならではの感性と言われています。

平安中期以降になると「残菊」は「移ろい菊」と呼ばれるようになりました。

「古今和歌集」平貞文に次の歌があります。

「秋をおきて 時こそありけれ 菊の花
うつろふからに 色のまされば」

物事は秋が盛りなのだとはばかり思っていましたら、それ以外にもまだひと盛りする時があるのです。ご覧下さい、この菊の花を。色変わりしはじめるやいなや、一段と美しさを増したではありませんか。

「後拾遺和歌集」藤原義忠の歌

「紫に やしほ染めたる 菊の花
うつろふ色と 誰かいひけむ」

紫に何度も染めたような美しい菊の花をうつろう色などと誰が言ったのだろう。

このように、霜により紫に変化した「移ろい菊」は平安貴族の紫への愛着から、白い菊より美しいと好まれていたようです。

紫がかった菊の花の写真を探しましたが、モノクロ写真しかありません。残念ながら、カラー写真は見つかりませんでした。(雅)



霜に遭い紫になった白菊

(写真は雑誌「淡交」より)

俳句同好会便り

私の一句 (十二月の句会から)

河合 和郎

俳句作りは知的作業の最たるものの一つ。五感を研ぎ澄ませて万物を観察する。そして17文字にその思いを凝縮させる。今年も俳句作りで脳を活性化させる努力をしてゆきたい。

泣き笑ひ見送る母や雪の駅 田中 信昭

子を思う母親の心情を一句に。幾つになっても子供は子供。子の後ろ姿に涙する親心なのである。

いくつもの駅通過ぎ冬の旅 池田ときえ

冬の旅は心華やぐ旅行と違って心旅でもある。幾つもの思い出が流れ去る時の旅でもある。

富士冠雪見上ぐる人の襟立てて 下山 邦夫

富士山に雪、冬の到来である。お山を遠く仰ぎつつ思わず襟を立てる粋な男の姿が一人。

生きてるか死んでいるのか枯蟻螂 野口 浩平

枯蟻螂は死んではない。寒さで身動きができないのだ。おい！起きろよ。優しい作者の目が。

逝きし人呼べば潤るめり冬の月 飯田富美子

親しい人との別れ。名前を呼ぶ。再び悲しみがこみ上げてくる。いたわるように冬の月が照らす。

喜怒哀楽人さまぎまの師走駅 馬場 征彦

駅には出会いと別れがある。人それぞれが悲喜交々の思いを抱いて師走の駅を通り過ぎてゆく。

生きている証となりぬ年賀状 石田 文彦

石田さんは元プロバス会員。大会後も趣味の俳句会には毎回参加。元気に旧交を温めている。

駅裏のなじみの屋台おでん酒 河合 和郎

昭和の古き時代にはこんなお店がいくつもあった。温もりの湯気があった。懐かしきかな昭和。

編集後記

令和6年中は、会員の皆様のご協力ご支援により編集できました。ありがとうございました。

新しき年も、少数精鋭のスタッフで充実した紙面を作っていくしたいと思います。会員の皆様の投稿を最優先に紙面を飾りたいと思いますので、ふるって作品をお寄せください。 情報委員会

